

ジュウジミズギワコメツキ *Fleutiauxellus cruciatus* (Candèze)

【選定理由】

本種は大きな河川の河川敷の下流域に生息する種であるが、河川敷の整備や水と水辺の汚濁などの影響を受けて、生息地が減少したり消滅しているところが多い。また、本種は河川敷の自然環境を示す指標種としても重要な種である。

【形態】

体長は3.5~5mm内外で、雌は一般に大形になり、体長が7mm近くになるものがある。体はやや扁平で光沢を有し、触角は黒色~黒褐色で肢は黄褐色。上翅は翅底近くと翅端近くに図示したような橙赤色の斑紋を有する。前胸背板は顆粒状の隆起物を密に生じ、正中部には平滑縦隆線を有する。



♀
豊橋市加茂町, 1990年6月3日, 大平仁夫 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県では矢作川下流域(西尾市~岡崎市)と豊川下流域(豊川市~豊橋市)に分布することが知られていたが、最近になって矢作川ではより上流域の豊田市南部地域に分布が見出された(岩月, 2007)。

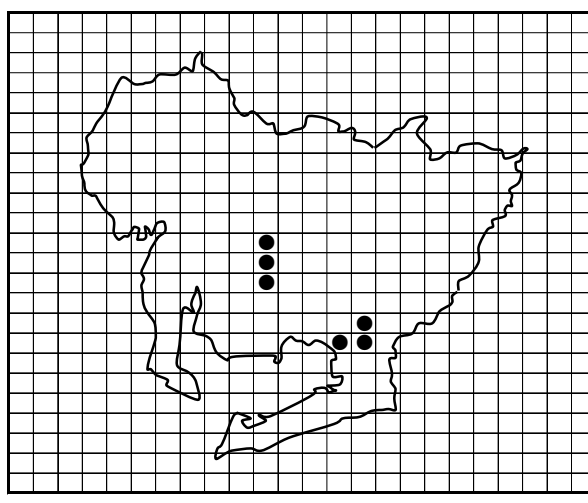
【国内の分布】

本州の関東地方から近畿地方(兵庫県)。

【生息地の環境/生態的特性】

愛知県で本種が生息する河川は、矢作川と豊川の下流域のみである。矢作川の下流域の河川敷は砂地帯であるが、豊川の下流域では砂礫の河川敷があって、本種の生息に適した環境にある。幼虫も砂礫中に生息しており、成虫は周辺にあるヤナギ類に発生しているアブラムシ類の甘露に集まっている。

県内分布図



【現在の生息状況/減少の要因】

豊川の豊川市から豊橋市にかけての河川敷では、現在でも点々と発生地があり、往時より個体数は減少しているが、まだ小集団を維持している。矢作川河川敷では、西尾市と岡崎市内の大部分では発生が見られなくなっているが、より上流域の豊田市の一部地域でまだ若干の個体が見出されている。

【保全上の留意点】

本種の生息には砂礫のある清潔な河川敷の存在が必要で、河川の水の汚濁を防ぎ、清潔な砂礫の環境を維持するとともに、周辺のヤナギなどの灌木で、成虫がアブラムシの甘露で栄養をとる環境があることも必要である。

【引用文献】

岩月 学, 2007. 矢作川流域のジュウジミズギワコメツキの生存記録. 三河の昆虫, (54): 650-651.

【関連文献】

大平仁夫, 1991. 愛知県から30数年ぶりに採集されたコメツキムシ2種. 三河の昆虫, (38): 320-321.

(2009年版を一部修正)